

論

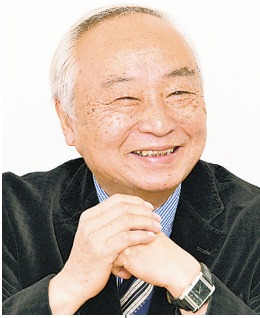
説

いつでも通い、知人と語り、昼食や趣味を楽しむ。

そんな「テンミリオンハウス」を東京都武蔵野市（15万人が創って25年になる。名称は年間上限1000万円の補助額にちなんだ。

第1号は「川路さんち」。

その名の持ち主から土地・平屋を寄贈され、改修して1999年発足した。翌年の介護保険発足をにらみ制度対象外の元気な原則65歳



宮武剛

テンミリオンハウス

保険者の役割を教える

以上の「集いの場」にした。若者に人気の吉祥寺を抱

ある平日、最新の「ふらっときたまち」を見学した。

81歳。

筆者は、テンミリオンハウス併設を条件にする。入居者の8割以上を市民にする。医療・介護サービスの提供は入居者に限定してはならないなどの独自ルールを設けたからだ。

え武蔵野市は豊かな自治体である。ただし、デイサービス1カ所です。当時3000万円の経費がかかり、その3分の1で介護予防の場をつくれた。財政力というより企画力だ。

「月見路」「そらの家」の主婦らが家庭的な料理を

重視」や、地域包括ケアシステムという「まちぐるみ」の支え合い」の先駆例であることを体感してきた。

「きんもくせい」「花時計」

格安で出す。職員は近場の商店やスーパーを駆け回り、1円でも安い食材を探す。

全国的にサービス付き高齢者住宅（サ高住）が大量に建設され、特定の事業者が介護サービスを独占提供している。次は、小学生たちも茶道や琴の教室に通う。施設長は「子育てが一段落したから手伝ってくれるお母さんがいます。次は、小学

「くるみの木」が次々に生まれた。市有や賃貸借物件を活用し、運営は1カ所を除いて地元の主婦らがつくる市民団体にまかせる。

「きんもくせい」が問題に生たたちが成長しボランティアで来てくれる日を楽しみ

「花時計」は、乳幼児も受け入れる。小学生たちも茶道や琴の教室に通う。施設長は「子育てが一段落したから手伝ってくれるお母さんがいます。次は、小学

「きんもくせい」が問題に生たたちが成長しボランティアで来てくれる日を楽しみ

「きんもくせい」が問題に生たたちが成長しボランティアで来てくれる日を楽しみ

「きんもくせい」が問題に生たたちが成長しボランティアで来てくれる日を楽しみ

「きんもくせい」が問題に生たたちが成長しボランティアで来てくれる日を楽しみ

「きんもくせい」が問題に生たたちが成長しボランティアで来てくれる日を楽しみ

「きんもくせい」が問題に生たたちが成長しボランティアで来てくれる日を楽しみ

「きんもくせい」が問題に生たたちが成長しボランティアで来てくれる日を楽しみ

「きんもくせい」が問題に生たたちが成長しボランティアで来てくれる日を楽しみ

「きんもくせい」が問題に生たたちが成長しボランティアで来てくれる日を楽しみ

みやたけ・ごう NPO法人福祉
フォーラム・ジャパン副会長、学校
法人・社会医学技術学院理事

1日10〜20人、登録者は7

建設補助を受けるには東京都の基準か、テンミリオン（本紙論説委員）